

令和3年度 公益社団法人益田市医師会 事業報告

中長期計画（実施計画）について

1 在宅を中心とした安心して住める環境づくり			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
1-1 社会保障制度の流れと地域の特性、ニーズに対応したシステムの整備・推進	①情報の収集・調査分析	a.国・県・市町村・日本医師会等情報の収集と調査・分析	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.各機関から収集した重点情報について医師会全体で共有し、対応（方針）を検討した 【統括部】 1.診療報酬の改定情報を注視し、早期に対策を実施した 2.介護報酬の改定（令和3年）、益田市介護保険事業計画（令和3年度）えっとまめなプランについての情報を収集し必要な対応等を検討した	1.診療報酬改定（令和4-6年度） ・医事課にて令和4年度診療情報改定についての情報収集を始め、WEB研修会を開催。 2.介護報酬改定（令和3-6年度） ・10月より、LIFE対応、11月より算定開始 3.第8次医療計画（島根県地域医療構想見直し） 4.第8期益田市介護保険事業計画（令和3年度えっとまめなプラン） 5.働き方改革への対応（医師：R6.4月から） ・医師の宿日直許可申請を行い、現在精査中	1.第8期益田市介護保険事業計画（えっとまめなプラン）の内容の検証 ・生きがい活動の推進、外出支援等、「地域に貢献する活動」の実現のための検討開始 2.令和3年介護報酬改定内容の検証 3.令和4年度診療報酬改定内容の調査
		b.情報の集約、分析を中心となって担う体制の検討	⇒	⇒	⇒		1.情報管理室の活用方法の検討 2.総務課内に情報管理室担当者を配置、後進の育成、組織化を目指す 3.医療センター内各部のスムーズな情報交換の方法を検討 4.医療センター内にある情報の把握（各システムで把握可能な情報） 5.現情報発信状況の再確認・確実化	
	②少子高齢化社会に対応した医師会独自の地域医療・介護の体制づくり ・「地域包括ケアシステム」の推進 ・地域完結型社会の構築 ・地域医療、在宅医療への新たな対応	a.地域のニーズの把握	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.社会構造の変化に伴う地域のニーズについて、圏域内の諸会議を通じて把握・共有した 【統括部】 1.統括部の各事業所から現場意見を集約し、ニーズの把握につとめた 2.地域の関連事業所、地域住民のニーズを収集につとめた		
		b.先進事例等の調査と検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.統括部とともに先進事例等を調査し、地域の医療介護に資する新たな取り組みについて検討した 【統括部】 1.先進事例の情報収集につとめた		
		c.会員との連携	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.会員と連携し、医師会資源を有効に活用した医療・介護の支援体制の構築に努めた 【統括部】 1.会員訪問は、コロナのためアンケート調査を実施。3医院は訪問した 2.医療連携推進コーディネーター事業を活用した取り組みを実施した		
		d.行政等との連携	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.行政等との連携を密にし、取り巻く状況やニーズの変化に適切に対応を行った 【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業、在宅医療介護連携推進		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						事業において、保健所、圏域市町との連携し、効果的に実施した		
		e.医師会独自の「医療・介護推進プロジェクト」の推進 ・益田市との意見交換 ・医師会の役割（方針）検討 ・体制等検討 ・関係事業の実施	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.「地域医療介護連携統括部」を核とした「医療・介護推進プロジェクト」を重点的に推進した 【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業、在宅医療介護連携推進事業において、保健所、圏域市町との連携し、効果的に進めた 2.統括部の各事業所から現場意見を集約した		
		f.地域内完結率の向上	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.統括部・病院事業部と協力し、かかりつけ医との連携強化を図った（在宅療養後方支援病院の円滑運用） 2.各種補助事業等を活用し近隣病院・介護事業所との連携強化を図った（連携会議や定期施設訪問、各種研修会等の実施による連携強化） 3.新型コロナ感染防止のため益田赤十字病院と連携し圏域での支援体制の協議を行った 【統括部】 1.透析・ターミナル・呼吸器管理・補液のみの患者などを積極的に受入れる。数は少ないが適宜対応した。日赤での出張相談を企画実施した 2.他圏域の患者の受入れ数の検討をする。萩慈生病院と相談したが、六日市苑縮小に伴う受け入れを優先した		
		g.在宅医療を維持するための体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.在宅療養後方支援病院の活用を推進した 2.医療連携コーディネーター事業により、訪問診療維持のための新たな仕組み等について検討した 【統括部】 1.在宅療養後方支援病院の登録者を増やす 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人。 （R3 年度新規 10 人、終了 21 人） 2.在宅医との意見交換会で、在宅看取り患者の急変時対応について検討した 3.統括部の各事業所から現場意見を集約した	1.在宅酸素療法患者の情報収集の検討	
		h.へき地医療を維持するための体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.へき地での医療拠点確保や中山間地域の交通手段の確保、通院困難者に対する巡回型診療体制等、将来に向けた総合的な課題・施策について検討した 2.会長・副会長会議にてへき地医療を維持するための協議を行った（7 月 8 日）		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推 進 課 題	対 応 方 針	実 施 計 画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		i.地域密着型サービスや在宅入居への業務進出の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.他法人の地域密着型サービスや住宅入居等業務内容の検討をしたが、現時点での必要性は見いだせなかった。 【統括部】 1.統括部の各事業所から現場意見を集約した 2.医療近接型住まい、サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護など設置の検討 具体的に進んでいないが、今後も検討していく 3.老人福祉施設の設置方法を探る 具体的に進んでいないが、今後も検討していく		
		j.医療度の高い利用者の在宅支援	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.統括部の各事業所から現場意見を集約した 2.在宅療養後方支援病院の活用を進める 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人。 （R3 年度新規 10 人、終了 21 人） 3.退院後訪問はコロナのためできなかった 4.訪問看護の活用を推進するための働きかけをした 訪看ステーション協会会議に参加した		【くにさき苑】 1. ストーマや尿バル管理等について、特定看護師と相談しながら実施し、ケアの質向上を図り在宅復帰、在宅生活支援を推進した ・特定看護師異動となったため、次年度は取組みなし 【訪問看護】 1.病院との連携方法について、現状の問題点を抽出。改善策をスタッフ間で共有した
		k.医療と介護の地域連携システムの導入と運用	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.益田市スマートヘルスケア事業への協力継続（Iot を活用し血圧データ生活習慣に関する情報共有） 2.MCSCC との babytech での子育て支援の実証試験への協力継続 3. MCSCC と医師会との間で令和 3 年 7 月 27 日に医療ヘルスケアに関する包括協定を締結（山陰パナソニックの技術を使った医療介護施設への実証実験を独自に行う） 【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業で、情報共有ツールを検討 2.地域連携室・包括・居宅介護支援事業所の連携強化(医療介護連携統括部の管理権限強化、医療・介護連携委員会の機能増強)		
		l.在宅医療・介護連携推進事業の推進 ・コア会議による益田市との調整 ・医師会実施事業について検討 ・体制等検討 ・事業の実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.益田市や保健所と協議しながら、円滑に事業を進めた。 ACP の普及啓発で、パンフレット作成、出前講座、多職種研修会を実施した 2.在宅医療・介護連携推進協議会で、実施事業の報告と課題解決を図った。7/5 オンライン、3/15 は書面会議になった		
2 医療機能再編への対応			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推 進 課 題	対 応 方 針	実 施 計 画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
2-1 地域医療構想	①「地域医療構想」への対応	a.「地域医療構想」の検証と対応検討 ・情報の収集と分析	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.引き続き情報収集に努め、圏域保健医療対	1.「地域医療構想」について、病院としての対応について検討する	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
応じた医療機能再編に必要な対策の検討と推進						策会議等を通じて圏域内の意見調整を図りながら、医師会としての対応方針について検討を継続する	・地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 に実施	
		b.病床機能の検証 ・必要な病床機能の検討 ・地域外流出実態の調査	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.各事業部・統括部と協働し、患者動態や在宅復帰の状況等のデータを蓄積し、病床再編計画による病床機能・病床数について引き続き分析・検討する 【統括部】 1.退院患者動向、退院困難事例の把握。圏域内医療実務者会議で情報交換実施した。9/2、12/16、3/17 開催 2.病床稼働率、在院日数、必要度の動向把握 3.当該医療機関との情報交換のシステム作り（状況確認）コロナ禍にて実際に訪問ができないため電話、オンラインで協議（益田日赤、六日市病院、萩慈生病院） 4.慢性期病床待機者の把握と当該医療機関訪問。六日市苑を訪問した。萩慈生病院は電話で相談した。益田日赤での出張転院相談を企画実施した	1.病床機能再編に備えたデータを蓄積する 2.患者・利用者の流れ（Patient Client Flow Management）の確立 3.当院で可能な病棟機能の検討・明確化 ・地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 に実施	
	②他医療機関との連携と役割分担の検討	a.医療センター内での各病棟・施設との役割分担の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.病床活用カンファレンス、医療・介護連携委員会の活用 一定程度の効果あった 2.統括部内で、病棟～老健～在宅間のスムーズな流れの検討 老健の利用方法がスムーズになった。 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	1.Patient Client Flow Management（以下、PCFM）の確立 2.職員に向け、各病棟の役割への理解を深める ・医療療養病棟、介護医療院での介護技能実習生についての研修会の際に実施	
		b.圏域内の他医療機関との役割分担の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療連携実務者会議を継続実施した 9/2、12/16、3/17 開催 2.益田赤十字病院・地域連携担当者意見交換会再開 8/5、2/28 オンラインで実施した。益田日赤での出張転院相談を企画実施した 3.在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会の継続実施 11/17、2/3 に開催した	1.他病院との会議等で連携を深め役割分担について引き続き検討する ・新型コロナウイルス感染症患者の益田赤十字からの転院受入れ、広域調整本部からの受入れを行った。（実人数 22 名、延 115 名） ・益田赤十字病院の新型コロナウイルス感染症患者対応に基づく平日午後の救急隊の受入れ実施（9/6～10/1）	
	③病床機能ごとの運営方針の検討と策定 ・急性期機能 ・回復期機能 ・慢性期機能	a.急性期機能の運営方針の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.在院日数、看護必要度、選定療養費など管理の徹底により受入れ、回転などの促進を図る 更なる高度な管理を行っていく必要がある 2.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	1.利用者の疾病の特性について調査し整理する 2.急性期機能の在り方について検討する。課題として新型コロナの影響もあり、入院数、看護必要度が低下している 3.公的病院等 2025 プランにて計画化する 4.4 階病棟の在り方と PCFM の確立 5.看護師不足の中、急性期機能の患者数に左右されない体制構築を検討し、回復期、慢性期の重要性をアナウンスしている 6.コロナ禍の中で回復期・慢性期機能が病院経営の基盤を支えている	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		b.回復期機能の運営方針の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.回復期リハビリ病棟の入院料 I 取得。施設基準を維持できるよう注視した 2.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	1.利用者の疾病の特性について調査し整理する 2.回復期機能の在り方について検討する 3.公的病院等 2025 プランにて計画化する 4.地域包括ケア病棟の在り方と PCFM の確立 5.回復期リハ病棟の在り方と PCFM の確立 6.地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 実施 ・回復期リハビリ病棟の入院料 I 取得と体制強化加算取得で今年度の平均日当円が 38,020 円（前年平均比+2,494 円）	
		c.慢性期機能の運営方針の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療療養病棟入院基本料 I 堅持 施設基準を維持できるよう注視した 2.特殊疾患病棟病床数 45 床になった 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	1.利用者の疾病の特性について調査し整理する 2.慢性期機能の在り方について検討する 3.公的病院等 2025 プランにて計画化する 4.医療療養病棟の在り方と PCFM の確立 5.特殊疾患病棟の在り方と PCFM の確立 6.医療療養病棟の医療度確保に向けて、統括部・病棟師長・主任・医事課で連携して進める ・医療療養病棟入院基本料 I 取得、今年度の平均日当円が 19,629 円（前年平均比 +1,562 円） ・病棟移動に伴い特殊疾患病棟病床数を 48 床から 45 床に変更（10/1～）	
2-2 地域医療構想に応じた介護機能の対応策の検討と推進	①他介護施設との連携と役割分担の検討	a.医療センター内での各病棟・施設との役割分担の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.病床活用カンファレンス、医療・介護連携委員会の活用した 2.各施設訪問にてニーズの見極め、住み分けの検討が必要だが、コロナ禍のために訪問できなかった	1.目的・役割・理念の明文化及び浸透 2.次工程の明確化（PCFM の確立、患者・利用者をつなぐ・受け取る） 3.各病棟の管理職体制を見直し（師長・主任 2 名の配置）方向性をしっかり職員に落とし込む体制を整える 4.来年度、看護部体制が大きく変わる中、体制の構築と新しい管理職への育成と支援が必要	1.週 1 回の病床活用カンファレンス・医療介護連携委員会を活用し、医療から介護への流れの推進に努めている
		b.圏域内の他介護施設との役割分担の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.圏域医療実務者会議で検討 9/2、12/16、3/17 開催 2.各施設訪問にてニーズの見極め、住み分けの検討が必要だが、コロナ禍のために訪問できなかった	1.他の介護施設との会議等で連携を深め役割分担について引き続き検討する	1.施設訪問等を行い、圏域における老健の役割を検討する→新型コロナウイルス予防のため訪問は中止し、アンケートを実施
	②機能ごとの運営方針の検討と策定・介護期機能	a.介護期機能の運営方針の検討	⇒	⇒	⇒		1.利用者の疾病の特性について調査し整理する 2.介護期機能の在り方について検討する 3.各機能としての在り方と PCFM の確立 4.介護医療院の機能・メリットを活用する 5.介護医療院での短期入所の検討 6.病棟活用との連携強化（医療との連携の再確認）	1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた
	③役割分担と必要な体制整備の検討	a.介護医療院としての運営方針の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.介護医療院の効果的な利用方法の検討が必要	1.介護医療院としての在り方と PCFM の確立 2.「日常的な医学管理」「看取りや・ターミナルケア」、介護機能、生活機能「生活施設」の 3 つの機能を持つ体制とする。（令和 3 年度改定への対応と連動、10/1 より LIFE データの蓄積を開始し、11/1 より算定開始した） 3.在宅復帰や他施設への転所による流動性を確	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							保するかを検討 4.介護医療院の機能・メリットを活用する 5.介護医療院での短期入所の検討	
		b.介護老人保健施設としての機能の強化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療・介護連携委員会にて超強化型老健の要件のチェックを適宜行った		1.在宅復帰機能超強化型を維持 2.通リハのサービス内容・体制等の変更を検討・実施を継続中 ・7月より一般浴中止 ・8月より定員 45 人を 40 人に変更、土曜日を休業とした
		c.入所待機者を見据えた受け入れ体制の構築	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.在院日数、看護必要度、選定療養費など管理の徹底により受入れや各病棟、老健の移動など適当に行うようつとめた		1.長期入所者確保のための対応を継続実施し、退所予定なし 40 人前後で維持した 2.待機者リスト（院内・在宅）を作成・活用しベッドコントロールを継続 3.適宜、益田赤十字病院・松ヶ丘病院相談室との情報交換を実施 4.毎週、居宅介護支援事業所のミーティングに参加し利用対象者の選定や空床案内、情報交換を行った
2-3 地域医療構想に 応じた在宅医療 機能の対応策の 検討と推進	①在宅医療への支援・検討	a.調査に基づく在宅医療支援（必要性）の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1. 益田市と国保診療所の在り方について協議（12 月 13 日）。益田市に将来方針の決定を依頼 【統括部】 1.在宅療養後方支援病院の積極的な利用 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人（R3 年度新規 10 人、終了 21 人） 2.在宅医との意見交換会で、在宅看取り患者の急変時対応について検討した 3.退院後訪問や訪問看護の活用が必要	1.在宅医療への支援体制の必要性について検討する 2.常勤医による訪問診療機能・へき地診療機能の新設の必要性について検討する 3.新しい訪問サービス体制について検討する	
	②機能ごとの運営方針の検討と策定・在宅医療機能	a.在宅医療機能の運営方針の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.在宅医との意見交換会で、在宅看取り患者の急変時対応について検討した 2.会員訪問結果の分析 コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した 3.在宅医療部門の在り方についての検討を行う	1.利用者の疾病の特性について調査し整理する 2.在宅医療機能の在り方について検討する	【訪問看護】 1.圏域在住の高齢者の病気の現状や、入退院の多い疾患の調査を検討⇒訪問件数の増加により今年度の実施は見送り、来年度の実施とする
	③在宅復帰できない患者・利用者への対応	a.療養病棟の形態変更の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.人員的に困難はあるが、障害者施設等入院基本料算定の検討 実施困難	1.療養病棟の在宅適応患者が退院するための支援体制について検討する 2.在宅困難ケースの増加に伴う、24 時間訪問看護・介護サービスの提供について検討する（医師会全体で） 3.現在の病棟機能から漏れる利用者の救済方法について検討する 4.医療療養病棟の在り方の検討を行い、介護医療院との連携を検討する 5.在宅サービスの周知と連携の検討	
		b.次工程の明確化（PCFM の確立、患者・利用者をつなぐ・受け取る）	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.病床活用カンファレンス、医療・介護連携委員会の活用 一定程度の効果あった	1.在宅医療への支援体制の必要性について検討する 2.常勤医による訪問診療機能・へき地診療機能	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						2.統括部内で、病棟～老健～在宅間のスムーズな流れの検討 老健の利用方法がスムーズになった 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	の新設の必要性について検討する 3.新しい訪問サービス体制について検討する	
3 医療・保健・福祉サービスの提供			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
3-1 益田圏域の医療ニーズへの対応	① 癌治療の変化への対応の検討	a.最新の癌治療の情報収集	⇒	⇒	⇒		1.治療方法、治療の紹介先、緩和ケア、終末期等の情報を集積し、必要な提供を行う	
	② 高齢者医療の充実	a.高齢者の増加に対応できる診療体制の検討	⇒	⇒	⇒		1.老年内科医師の検討 2.認知症対応力の強化 3.訪問診療の検討 4.益田圏域に特化した医療（医師）の把握・強化	
		b.高齢者の増加に対応できる看護体制の検討	⇒	⇒	⇒		1.増加する高齢者に対応できる看護体制について検討する 2.夜勤の負担軽減（看護補助者の夜勤導入等）について検討する 3.夜勤 3 人体制を目指す 4.ICT（見守り機器等）の導入及び活用を検討（コロナ対応病床 3 床で使用）	
		c.高齢者の療養環境の整備充実	⇒	⇒	⇒		1.ICT（見守り機器等）の導入及び活用を検討（コロナ対応病床 3 床で使用） 2.院内デイケアの検討・整備	
	③ 増加が懸念される疾病への対応	a.糖尿病患者を支援できる体制の確立	⇒	⇒	⇒		1.糖尿病支援ネットワーク事業を推進する 2.糖尿病療養指導士の資格取得・継続支援を推進する 3.院内に在籍している療養指導士等の活用について検討する 4.のぞみ会の活性化 5.腎臓内科との連携	
		b.肺炎等増加する疾病への対応の確立	⇒	⇒	⇒		1.増加する肺炎等へのより適切な対応について検討する 2.誤嚥性肺炎等、歯科医師会、歯科衛生士会、言語聴覚士等での協働 3.摂食嚥下障害看護認定看護師の育成を検討する（点数化への取組） ・呼吸器内科外来開設（4/1 から、毎週水曜日） ・呼吸器外科外来開設（9/1 から、第 1・3 金曜日）	
		c.慢性腎臓病（CKD）等腎臓疾患への対応	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.透析が必要となれば、状態に応じて、医療療養病棟・くにさき苑の使い分けを図った	1.腎臓内科開設を機会とし、益田圏域での中核的な役割を目指す 2.CAPD 管理の構築（既存症例の管理継続と新規症例の受け入れ） 3.管理栄養士活用による栄養指導の推進、集団指導の開始	
	④ 独居等の環境要因による入院への対応	a.在宅生活の維持が困難な方や通院手段がないなど社会的入院への対応	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.レスパイト的入院、くにさき苑短期入所・入所の使い分けの促進した	1.介護医療院での短期入所の検討 2.地域包括ケア病棟・医療療養病棟でのレスパイトの受け入れ検討	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						2.病床活用カンファレンス、医療・介護連携委員会で協議した	3.介護医療院の機能・メリットを活用	
	⑤増加する認知症患者への対応	a.認知症患者の療養環境の充実	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.松ヶ丘病院、認知症疾患医療センターとの連携強化、定期的な利用相談体制の確立をすすめている 2.認知症初期集中支援チームの活用、協働 具体的に進展したケースはなし。2件の相談は行った	1.認知症へ対応できる体制について検討する 2.認知症ケアの質向上のため人材（認定看護師、認知症介護基礎研修等）を育成する 3.認知症高齢者増加対応として院内デイケアの設置を検討する 4.レクリエーション可能な院内デイサービス、宅老所の設置等について検討する 5.ICTを活用した見守りシステムの検討・整備	
	⑥リハビリテーション医療の充実	a.入院リハの機能充実	⇒	⇒	⇒		1.入院リハ単位数増加（125,000 単位/年） 2.リハ目的の入院の増加 ・一般病棟・地域包括ケア病棟の年間 365 日リハの実施 ・各病棟におけるリハ機能の明確化 ・開業医、他の医療機関、居宅介護支援事業所、行政などに対する定期的な啓発活動のシステム化の確立 ・病院配属療法士の必要数の確保（PT20 名、OT15 名、ST5 名） ・リハ診察時の負担軽減への取組	
		b.外来リハの機能充実	⇒	⇒	⇒		1.外来リハ単位数増加（11,000 単位／年） 2.紹介件数の増加 ・紹介件数の集計と分析体制の確立 ・リハ対象者のパンフレット作成、見直し化システムの確立 ・開業医、他の医療機関、居宅介護支援事業所、行政などに対する定期的な啓発活動のシステム化の確立	
		c.地域活動の充実	⇒	⇒	⇒		1.地域ケア会議への参加 2.介護予防事業へ参入 ・地域ケア会議・介護予防に関わる職員の育成・登録の推進 ・行政など関係機関との連携体制の確立 ・市内他施設の療法士との連携体制の確立	
	3-2 益田圏域の保健等ニーズへの対応	①予防医療の推進	⇒	⇒	⇒		1.医師等の確保に努める 2.午後の検診、サンデー検診、レディース検診の実施について検討する 3.コロナ禍の中での検診業務の在り方を検討する 4.スマートヘルスケア事業への協力	
		②休日健診の検討	⇒	⇒	⇒		1.休日健診の実施について検討し、体制についても検討する 2.休日乳がん検診に加えて、休日レディース検診として、子宮がん検診とセットで行うなどの取り組みについて検討する 3.仕事の効率化等、人員不足の解消策について検討する	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
	③予防の推進活動（予防の重要性の周知）	a.健康予防の情報提供、健康相談の充実	⇒	⇒	⇒		1.益田地域産業保健センターとの連携を強化し予防活動を推進する	
		b.普及啓発活動の実施	⇒	⇒	⇒		1.あらゆる機会を通じ、予防の重要性等について周知する	
	④特定保健指導の推進	a.特定保健指導のニーズを調査し、必要な体制整備の実施	⇒	⇒	⇒		1.動機付け支援の検討	
3-3 益田圏域の介護等ニーズへの対応	①入所サービスの充実	a.増加する認知症高齢者への対応検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.松ヶ丘病院、認知症疾患医療センターとの連携強化、定期的な利用相談体制の確立を進めている 2.認知症初期集中支援チームの活用、協働具体的に進展したケースはなし。2件の相談は行った		1.多職種による定期的な認知症ケア委員会を開催した 2.認知症ケアスキルアップ研修へ参加 3.認知症実践者研修に 1 名参加し、受講後に伝達講習を実施した（3 月）
		b.かかりつけ医、精神科医、歯科医師会・薬剤師会との連携強化のための取り組み	⇒	⇒	⇒			1.迅速な情報提供・共有による連携強化に努めた
		c.ケアプランの充実のための取り組み	⇒	⇒	⇒			1.ケアプラン内容の確認・点検のスキルアップのため、相談員によるケアプラン勉強会を開催した 2.ケアマネジメント研修会へ 1 名参加し、受講後に伝達講習会を開催した
	②レスパイトケア・緊急入所に対応した短期入所療養介護の充実	a.休日・夜間における緊急受入体制の確立	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.在宅療養後方支援病院の積極的な利用 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人（R3 年度新規 10 人、終了 21 人）		1.緊急受入手順の見直し及び検討を継続中 2.対応手順を知するための方法を検討中
		b.医師会他事業所との連携による支援体制の構築	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療介護連携統括部主導によるベッドコントロール・権限強化 模索中 2.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った		1.支援体制強化のため、病床活用カンファレンス・医療介護連携委員会・居宅ミーティング等の機会を活用して情報共有や連携に努めた 2.地域連携室・医療介護相談室との連携および医師会病院・南棟部署との連携によるサービス提供を行った
	③通所リハサービスの充実	a.個別性、継続性のあるサービスの提供	⇒	⇒	⇒			1.リハ計画書の内容を定期的なミーティングで全スタッフ情報共有し活用している 2.各利用者に合ったプランをプライマリーとセラピストで検討している
		b.成果の総合的評価と情報提供	⇒	⇒	⇒			1.適宜、リハ計画に対する報告書を関連機関に配布している
		c.通所リハビリテーションの役割（あり方）の検討	⇒	⇒	⇒			1.現状調査・分析、検討を継続中 2.他施設の状況調査 3.研修会への参加 4.新たな通リハの運営方法を多職種で検討中 ・7 月より一般浴中止 ・8 月より定員 45 人を 40 人に変更、土曜日を休業とした
		d.リハビリテーションマネジメント加算Ⅳの取得するための体制づくり目指す	⇒	⇒	⇒			1.リハビリテーションマネジメント加算Ⅲの算定体制の確保⇒リハビリテーションマネジメント加算Ⅲは廃止され、LIFE をベースとしたマネジメント加算が新設され、2 月より一部算定開始 2.リハビリテーションマネジメント加算Ⅳ算定のための情報収集⇒リハビリテーションマネジメント加算Ⅳは廃止され、LIFE をベースとしたマネジメント加算が

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		e.生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定を目指す	⇒	⇒	⇒			新設され、2月より一部算定開始
	④訪問看護サービスの充実	a.他事業所（病院・施設・居宅等）との連携強化	⇒	⇒	⇒			1.算定要件を満たす研修の受講 2.対象者選定のための体制づくり
		b.ケアの質向上のための取り組み	⇒	⇒	⇒			1.退院前カンファレンスへ参加した 2.退院後の様子を病院へ情報提供した 3.在宅看取り時も医療機関へ状況報告を行った 4.関りや介入方法における課題の対応に努めている
		c.新たな訪問看護サービスの検	⇒	⇒	⇒			1.事例検討・技術研修を継続
	⑤居宅サービスの充実	a.行政や地域の状況を収集、把握するための取り組み	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.市包括支援センター・居宅介護支援事業所との連携強化を図った（情報交換・共有体制の構築） 2.医療・介護連携委員会の活用をした（病院～老健～在宅間の流れの構築）		1.会員アンケートの実施に向け、内容を検討中
		b.困難ケースの積極的な受入れのための取り組み	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.市包括支援センター・居宅介護支援事業所との連携強化を図った（情報交換・共有体制の構築） 2.地域福祉権利擁護事業、生活困窮者自立支援事業の活用をした		1.年 2 回開催される介護支援専門員連絡会への参加と伝達研修を実施した
	⑥訪問介護サービスの充実	a.ケアの質向上のための取り組み	⇒	⇒	⇒			1.登録ヘルパー3名、常勤兼務看護師1名を増員し、時間枠や訪問地区の拡大を図り、訪問件数が前年度比較で 250 件増加した 2.インフォーマルサービスを併用した利用継続の提案を行った 3.接遇やケアの統一を目的とした利用者アンケートを実施し、課題の把握・共有ができた
	⑦訪問リハサービスの充実	a.ケアの質向上のための取り組み	⇒	⇒	⇒		1.研修会や施設内勉強会への参加による人材育成 2.介護支援専門員との意見交換の体制確立（訪問調査等） 3.訪問リハ終了後の社会参加に関する情報収集のシステム化 4.他施設の状況や当事業所に関するデータ分析等により、益田市における訪問リハの在り方を明確にする	1.研修会や施設内勉強会への参加による人材育成に努めた 2.病院の訪問リハと連携し、介護支援専門員との意見交換を行う体制確立のため、行政への働きかけ方法を検討中 3.訪問リハ終了後の社会参加に関する情報収集のために LIFE を活用することを検討中 4.他施設の状況や自事業所に関するデータ分析等により、益田市における訪問リハの在り方を明確にし、啓発活動を実施 ・自施設のデータ分析については、LIFE を活用し、担当者を決めて集計・分析を行う準備中
4 利用者サービスの向上と創出			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
4-1 利用者サービスの向上	①安全な医療環境の整備	a.安全管理者の養成	⇒	⇒	⇒		1.看護部以外の医師、診療部、事務部でも医療安全管理者の養成を行う 2.介護医療院への設置（次年度受講を目指す）	
		b.医療事故発生時の対応体制の確立	⇒	⇒	⇒		1.法律等の施行に合わせた体制の更新等を実施する	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		c.臨床工学科の機能の強化による医療機器の安全の確保	⇒	⇒	⇒		1.臨床工学科の継続的な人材の育成・確保について検討する 2.体制の見直し ・病院機能評価受審に向けて総務課と協働する中で検討していく ・4月より副主任を設置	
		d.院内感染対策の充実に向けた取り組み	⇒	⇒	⇒		1.標準予防策遵守に必要な環境の整備を行う ・空調管理について見直しを行い、ロスナイ換気扇を設置 ・院内清掃について見直しを行う ・感染症対策を含めた2階病棟の改修を行い、新型コロナウイルス感染症患者入院受入実施 ・院内各所に自動水栓を設置 ・院内各部署にパーテーションを追加・設置	
		e.院内感染発生時の対応の強化	⇒	⇒	⇒		1.ICT活動を充実（時間の確保）する 2.保健所との連携を強化する 3.感染防止対策地域連携加算の継続 4.益田赤十字病院・松ヶ丘病院との連携を継続 5.アウトブレイク時の担当者支援体制の構築 6.後進の育成 7.感染症対策を含めた2階病棟の改修を行い、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れを実施（実人数22名、延115名入院） 8.介護医療院への担当者配置の検討 9.総務課との連携強化	1.介護施設としての新型コロナ感染予防・対策を他職種で協議し、感染対策マニュアルとして取りまとめる。（→医療センター感染BCPの作成の検討） ・保健所等の立会による感染防止対策状況の確認（7月）
		f.薬剤科による安全な薬剤管理の充実	⇒	⇒	⇒		1.薬剤の安全性の向上 2.薬剤管理サマリ等による保険薬局と連携強化 3.介護医療院の薬剤管理体制 ・病院機能評価受審に向けて事務と協働する中で充実を図っていく	
		g.放射線技術科による安全な放射線管理の充実	⇒	⇒	⇒		1.医療放射線安全管理責任者を中心とした医療放射線安全管理体制整備の構築	
	②緩和ケア（在宅・院内）への対応	a.緩和ケアチームの体制強化	⇒	⇒	⇒		1.緩和ケアチームの体制強化について検討する ・緩和ケアチームの継続と強化 ・入院・外来・在宅ケアチームの確立と連携 ・認定看護師の介入による実践力強化	
	③NSTや褥瘡などの診療の質を上げる委員会の活用	a.NSTや褥瘡などの診療の質を上げる委員会の運営方法の再検討	⇒	⇒	⇒		1.栄養サポートチーム加算取得を目指し再検討する	
	④診療・看護・介護の質を上げるための組織体制づくり	a.診療の質を上げるための部門の検討	⇒	⇒	⇒		1.皮膚・排泄ケア及び摂食・嚥下障害看護認定看護師の育成について検討する 2.排尿自立指導料取得のための専門看護師の検討（点数化への取組）	【くにさき苑】 1. 看介護 ・「転倒リスク低減WG」を立ち上げ活動（4～9月）し、転倒リスクを洗い出し、対策を検討し環境整備を行った ・安全対策担当者の選任等、安全管理体制を整備し、安全対策体制加算の算定を開始（9月） ・アセッサーの評価項目を活用して介護技術の評価を実施している

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
								・高齢者虐待防止の推進 ・外国人技能実習生受入事業の準備を通して、介護全体の質の見直しを継続した ・キャリアアップ研修会受講 ・学研ナーシングサポートによる教育体制の充実に努めた ・学研介護サポートによる介護従事者のスキルアップと生涯教育の推進に努めた 2.通所リハビリテーション ・運転手も参加し介護技術や接遇の勉強会を開催した（6回） ・都度、新規利用者に対する介護方法の検討を行った 3.リハビリテーション科 ・計画的な機器整備のため、次年度整備の希望を取りまとめた ・ICTを活用した歩行訓練用ロボットのデモを実施し、導入を決定した ・状況の変化に対応した、各サービスにおけるリハの役割やあり方の検討を行っている ・各サービスにおけるリハの役割を科内の計画的教育の中で啓発を行った ・適時、必要な人員数の検討をしている 4.相談員 ・他施設との情報交換を行い、利用者動向の情報共有に努めた ・ケアプラン勉強会を開催 ・報酬改定（LIFE）に関する勉強会に参加し、加算算定の準備を行った 5.栄養科 ・介護報酬改定に対応しマニュアルを見直し、スタッフへの説明を実施 ・強化加算算定に向け、管理栄養士の配置を検討した。 【訪問看護】 1.事業所内の事例検討・技術研修を実施 2.オンライン研修へ積極的に参加した 【居宅介護支援事業所】 1.事例検討会を行い、ケアマネジメント技術の向上を図った（7/9実施） 【訪問介護】 1.毎月の事業所内勉強会を実施（12回） 2.接遇やケアの統一を目的とした利用者アンケートを実施し、課題の把握・共有ができた 3.e ラーニングを活用しスキルアップを図った
		b.診療の質を上げるための「働き方改革」の推進	⇒	⇒	⇒		1.一人一人の生産性の向上と向上のための教育・支援体制の構築と機会の提供 ・コロナにより機会が激減しているが、継続する	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		c.既存部署毎に診療・看護・介護の質を上げるための対応策の実施	⇒	⇒	⇒		【診療部】 ・来年度、病院機能評価受審に向けて各部署と協働する体制を構築、各部署の課題・問題点を表面化させ、協働する体制を構築し、各部署の充実を図る。併せて次世代の育成も図る。 1.人材確保、人材育成、スキルアップ支援 ・職能団体等の育成教育研修等の活用を図る ①薬剤科 1)病棟薬剤業務実施加算取得への取り組み 2)病院薬剤師会認定薬剤師の育成 3)がん、緩和、感染、栄養、腎臓病、糖尿病、精神、老年薬学等、各種専門性を有した薬剤師の育成 4) バイオ後続品導入初期加算指導料算定への連携 ②放射線技術科 1)計画的な機器整備と補助金の確保 ③リハビリテーション科 1)計画的な機器整備 2)センター内におけるリハ機能の明確化と啓発 3)365 日リハ提供体制の検討（一般病棟、地域包括ケア病棟） 4)地域ケア個別会議や介護予防事業等への連携体制の確立 ④臨床検査科 1)日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認証制度への検討 ⑤臨床工学科 1)透析室との協働 2)内視鏡室との連携、他診療部との連携 ⑥栄養科 1)栄養管理の充実・質向上 2)病棟看護師等の負担軽減のための取り組み 3)管理栄養士の病棟配置の検討と業務調査 ・管理栄養士病棟（常駐）配置 ・栄養管理の充実・質向上 ・病棟看護師の負担軽減 ・他施設機関への栄養情報提供強化 ・回リハ病棟に配置 ・病棟業務の作業分担、できる業務の調査、検討 ・配置病棟時間の検討 ・給食管理業務、その他業務の見直し、業務量調査 ・部門業務の整理（管理栄養士でなくてもできる業務） ・科学的介護情報システム（LIFE）への対応等、必要人員検討を行い R4 年度 1 名増員 ⑦医療介護相談室 ・患者・利用者の流れ（PCFM）の把握と構築（Patient Client Flow Management）	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							【看護部】 ・来年度、病院機能評価受審に向けて各部署がと協働する体制を構築、各部署の課題・問題点を表面化させ、協働する体制を構築し、各部署の充実を図る。併せて次世代の育成も図る。 ・看護部体制が大きく変わる中、新たな体制の構築と新しい管理職への育成と支援の実施 1.人材育成、スキルアップの支援 2.次世代管理職候補の選定と育成 3.師長・主任の認定看護管理者教育課程への計画的な参加（毎年度、2 名程度参加） 令和 3 年度セカンドレベル 1 名、ファーストレベル 1 名受講した 4.管理職へ理念の浸透と経営意識形成と醸成 5.認定・特定・医療安全等への人選と育成支援 令和 3 年度医療安全管理者研修修了者 2 名 6.看護部の働き方改革 ・看護部事務クレークの配置の検討 ・看護部内タスクシフト・シェアの検討 7.教育の支援体制 ・各自で学べる学研の e ラーニングを導入し、コロナ禍でも学習の機会を提供、院内研修にも役立っている（4 月より看護・介護職員対象） ①外来 1)内視鏡検査技師の育成 2)病棟応援体制の構築 ・入院時、病棟応援看護師業務の確立 ②手術室 1)病棟応援体制の検討 ・日当直時、手術対応患者来院の際の応援体制の検討 ③保健予防センター 1)保健予防センターの機能促進 2)健診枠の拡充 ・人間ドック受入れ人数の増加 ・特定保健指導実施（管理栄養士と協力体制必要） ・疾病予防のための活動の推進（休日乳がん検診、休日検診、事業所健診、特定健診などの実施） ・健康教室の開催（メンタルヘルス対策への外部活動） ・ストレスチェック事業 ・心の相談業務など ・職員の健康保持増進についての支援の取組み ④医療安全対策室 1)安全な医療・介護の提供 ・リスクマネジメントにおける職員教育 ・多職種協働、患者参加の推進 ・職場環境の整備 ・安全な医療機器の取り扱い	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							・部門間の協力、情報共有 ・改善活動の推進 ・転倒・転落防止対策 ・医療事故対応 ⑤感染対策室 1)感染対策環境の充実 2)感染管理認定看護師の育成 ※病棟に関しては 7-2・3・4 にて 【事務部】 1.人材育成、スキルアップの支援 ・スキルアップのための資格取得への支援 今年度、施設基準管理士・診療情報管理士取得に向けて取り組み開始 2.事務職員として理念の浸透と経営意識の形成 3.組織ビジョンの共有と実現のために「自ら考え行動する」 4.「変化・変革」に対応するイノベーターシップ（マネジメント＋リーダーシップ）の醸成 5.医療・介護現場からのタスクシフト・タスクシェアの検討及び実践 6.令和 4 年度、病院機能評価受審の検討及び情報収集（受審準備・体制づくりを実施） 7.事務職員としての必要なスキルの把握と周知 ・ 来年度、病院機能評価受審に向けて各部署と協働する体制を構築、各部署の課題・問題点を表面化させ、協働する体制を構築し、各部署の充実を図っていく。事務部は全体の取りまとめ、調整、情報共有、方向性を支持する役目を担い、事務職員としてのマネジメント能力を高める	
4-2 情報発信、広報活動の実施と充実	①より効果のある広報活動の展開	a.広報活動体制の見直し	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.各事業部と連携して、効率的でより効果のある広報活動が展開できる体制について検討し必要な見直しを行った 2.業務支援室による情報発信の強化のための準備を行った	1.効率的でより効果のある広報活動が展開できる体制について検討し必要な見直しを行う	
		b.情報誌（双葉他）の魅力化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.連携室だよりの充実 7 月、11 月発行した	1.魅力ある誌面作りについて検討する ・病院だよりの充実	1.魅力ある誌面作りについて検討した
		c.リニューアルしたホームページの活用	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.医師会として、正確で有益な情報の掲載を行った 2.業務支援室による情報発信の強化のための準備を行った 【統括部】 1.在宅医療介護連携推進事業内容を適宜更新する 2.統括部の役割・体制について掲載内容を充実させる		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		d.インターネット（HP・SNS）の活用促進	⇒	⇒	⇒	1.業務支援室による情報発信の強化のための準備を行った	1.インターネットを活用した病院の周知対策として、新たな発信方法を展開する	
		e.関係機関や地域への広報の実施	⇒	⇒	⇒	2.業務支援室による情報発信の強化のための準備を行った	1.多くの媒体を利用した広報対策を検討し実施	
5 医師会共同利用施設活用への支援と利用促進			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
5-1 会員が利用しやすい共同利用施設の運営	①会員が利用しやすい共同利用施設の運営体制	a.会員医師と職員との連携強化	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.診療報酬関係や医師会活動に関するアンケート調査を必要時に行い会員支援に役立てた（年間 14 回） 【統括部】 1.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査を 7/30 実施、40/46 診療所回答あり 3 医院は訪問した	1.会員医師と連携を強化し共同利用の推進に努める 2.会員と常勤医師の協議の場を設定する 3.毎年の会員医訪問において改善点・要望を聴取し、事業部全体へフィードバックを行う （コロナ禍により要望がある会員のみの訪問とし、他はアンケート調査により確認することとした）	
		b.より良い関係構築のための方策検討	⇒	⇒	⇒		1.毎年の会員医訪問において改善点・要望を聴取し、必要な方策について検討する 2.医師会各施設に正確で幅広い情報提供	
		c.地域医療介護連携統括部による会員との連携強化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを図った 2.会員の要望を的確に収集し、関連部署に連絡した	1.各事業部の利用動態について定期的に報告・協議を行い、連携を強化する 2.地域医療介護連携統括部内の相談員同士での情報交換を密にし、相互利用活性化を図り、会員に適切な情報を提供する	
	②地域医療支援病院としての機能の充実	a.紹介患者に対する医療の提供 紹介率の向上対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査を 7/30 実施、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した 2.紹介患者のスムーズな受け入れを図った	1.会員との連携強化（紹介方法・受入態勢等）について検討し実施する 2.退院調整能力の向上について検討し、紹介率の向上を図る 3.地域医療介護連携統括部と病棟と連携強化 4.退院調整看護師の増員等による退院支援の充実について検討する 5 入院時の対応強化と退院調整への流れの確立（点数化への取組）	
		b.救急の維持対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.日赤との連絡会議で話し合った。コロナ患者の入院病床確保のため、連携できた	1.圏域救急病院と役割を分担し圏域の救急医療の一翼を担う ・益田赤十字病院の新型コロナウイルス感染症患者対応に基づく平日午後の救急隊の受入れ実施（9/6～10/3） 2.会員の協力体制について検討する	
		c.共同利用の促進対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した	1.医療機器等の共同利用の更なる利用について検討し、利用率の向上に努める 2.ニーズ・必要性・経営等、多角的に検討し最新医療機器・備品の整備を行う 3.医療材料等の共同購入の検討	
		d.地域の医療従事者に対する研修の実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業、在宅医療介護連携推進事業を活用した研修会の開催 多職種研修会（11/17.2/3）、介護事業所での出前研修を 6 回開催した	1.会員医療機関、介護施設他の従事者に対して医師会研修会の開放を行う 2.医師会医師会、薬剤師会との共同の研修会を開催する 3.病院・くにさき苑が研修受入機関となり研修生を受け入れる	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		e.かかりつけ医の支援対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.在宅療養後方支援病院の積極的な利用 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人。 （R3 年度新規 10 人、終了 21 人） 2.在宅医との意見交換会で、在宅看取り患者の急変時対応について検討した 3.退院後訪問はコロナ禍のため実施できなかった	4.島大医学部付属病院スカルップセンターとの協働 1.在宅療養後方支援病院として、かかりつけ医の診療支援 2.対応困難な診療への支援 3.休診・休日・夜間の支援体制の検討 4.医師会員のニーズに対応した体制の検討	
		f.医師少数地区等を支援対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医師の意見交換会で引き続き検討が必要	1.地域医療拠点病院としての事業を展開する ・9/13 より小野地区に巡回診療を開始	
	③開放型病棟、手術室の利用促進	a.会員の手術室利用の強化	⇒	⇒	⇒		1.耳鼻咽喉科手術体制の継続	
	④共同利用検査機能の充実（臨床検査センター以外の検査）	a.検査の紹介数の向上の検討	⇒	⇒	⇒		1.効率的な運用により予約枠の拡大について検討する 2.放射線検査オンライン予約システムの導入について検討する 3.放射線検査画像、検査レポートの受け渡し方法について検討する	
		b.既存検査機能の拡大	⇒	⇒	⇒		1.検査機能の補完（益田赤十字病院の検査部門をバックアップ機関として使用させてもらうための協議を行う（検査項目、手順））について検討する 2.検査機能の拡大（不妊治療のための検査設備の充実（外来部門、採精室の整備））について検討する	
		c.最新検査機器の整備検討	⇒	⇒	⇒		1.ニーズ・必要性・経営等を踏まえ、毎年高額機器等購入計画で整備を行う 2.整備にあたっては補助金確保を活用する	
	④臨床検査センターの安定した運用	a.臨床検査センターの運用データの収集	⇒	⇒	⇒		1.開設以降の各種データを収集・蓄積する	
		b.臨床検査センターの運用について会員意見聴取	⇒	⇒	⇒		1.医師会員訪問に同行し、意見聴取を行う	
		c.臨床検査センターの運用方法の検討	⇒	⇒	⇒		1.収集したデータ・意見等を元に運用方法について検討する 2.臨床検査センター独自での検体取扱件数増加への取り組みの検討（スマートヘルス事業への協力や給食施設の検便等） 3.保健予防センター（企業検診等）と協働検討 4.益田市スマートヘルスケア事業への協力	
	⑤透析室の安定した運用	a.透析部門の組織化の検討	⇒	⇒			1.透析部門の確立 ・島根大学腎臓内科の治療方針に沿った診療への変更、それによる透析症例の延命と患者数減少の抑制 ・副主任を設置	
		b.必要な人員・機材の確保	⇒	⇒	⇒		1.患者数に応じた人員・機材の確保 2.器材の標準化。それによる材料費削減 ・益田赤十字病院との標準化	
		c.取り扱い患者の増加	⇒	⇒	⇒		1.新規患者の受け入れ ・旅行患者・里帰り患者の受け入れ開始 ・送迎サービスの検討 ・透析高齢者の受入可能施設の増加を推進	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
	⑥共同利用施設としての介護施設の利用促進						・患者様増加時、1 日 2 クール体制への取組 2.腎臓内科を含めた今後の透析患者の把握	
		d.新規診療報酬算定項目の情報収集と推進	⇒	⇒	⇒		1.透析リハビリテーション料の開始 2.血液透析アクセス日常管理加算の検討	
		a.介護医療院、介護老人保健施設の入所利用者の会員紹介数の向上の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.利用方法の PR、パンフレットを更新した 2.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した 3.紹介患者のスムーズな受け入れを図った	1.患者・利用者の流れ（PCFM）の確立（Patient Client Flow Management） 2.介護医療院の機能・メリットについて活用する	1.統括部と協働し、会員の利用（紹介）促進に努めた 2.定期的に空床連絡を行い、利用や紹介の促進に努めた
		b.短期入所、通所リハの利用者の会員紹介数の向上の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.運営方法の変更を PR した 2.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した 3.紹介患者のスムーズな受け入れを図った	1.介護医療院における短期入所の検討	1.週 2 回の空床状況の連絡を継続中
		c.訪問看護、訪問リハ、訪問介護の会員利用者の紹介数の向上の検討	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.利用方法の PR した 2.会員訪問結果の分析と活用 コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問した 3.紹介患者のスムーズな受け入れを図った	1.訪問リハでの診察への対応検討	【訪問看護】 1.積極的な受入れにより月平均訪問件数は前年度比 146 件増加 2.新規紹介時等には、適宜かかりつけ医を訪問し訪問看護の役割やケア内容等について、伝えた
5-2 医師会としての 会員支援の検討	①開業・廃業・継承時の支援	a.支援方法の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.山陰合同銀行とタイアップした支援業務のマニュアル化ための協議を行った。（12 月 3 日）		
		a.医療事故支援体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.医療事故研修会等への参加を促進する 2.医療事故相談体制について検討する		
	③診療所経営に関する支援	a.診療報酬等の算定支援	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.新型コロナ感染まん延のため活動できず		
		b.薬剤診療材料削減方法の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.適正在庫での購入方法の検討が行えなかった		
	④会員医師の生涯教育の推進と技術の向上	a.医療技術の生涯教育への支援	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.学術講演会及び病院主催の技術研修会の開催等の実施 2.マニュアル化を進める		
		a.歯科医師会・薬剤師会と連携した取り組みの検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.糖尿病の医科歯科薬科連携事業（島根県歯科医師会 地域保健部が主体で実施）に協力する	1.適切な薬剤選択支援 1) 地域フォーミュラについて学ぶ（講演会等の開催） 2) 地域フォーミュラ策定を行う組織作り 3) 策定に着手 4) 最低 1 つの薬効群について実行 ※地域フォーミュラとは、地域ごとに策定する医薬品の使用	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							指針（地域の病院・診療所・薬局で処方例を決める） ※現体制では実施は難しいと判断	
6 地域社会への貢献			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
6-1 大規模事故・災害時の援助体制の整備充実	①大規模事故・災害援助体制の確立と支援体制の整備	a.災害時の益田市医師会の役割の確定 ・益田地域災害医療対策会議への参加	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.会議等での情報収集及び益田市地域防災計画の理解を深め、防災対策委員会で周知を図った 2.新型コロナワクチン接種事業への参加、行政や関係機関との協業体制づくり ・新型コロナウイルスワクチン接種準備部会を4回開催した。 ・診療・検査医療機関への登録延長（18 医療機関） ・個別接種医療機関への登録（33 医療機関） ・集団接種への参加（25 医療機関 29 名） ・自宅療養者サポート医療機関への参加（15 医療機関） ・マスコミや HP への感染防止のための啓発活動を行った。 ・追加個別接種・集団接種事業に参加した。 3.1月28日に職員保育所でクラスター発生（陽性10名：園児5名、保育士3名、家族2名）し、保育所全体を濃厚接触者とし2月6日まで休園とした。再開後保育所の管理体制の再確認を行った		
		b.大規模事故・災害時の連絡体制の確立と通信方法の確保	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.衛星電話等、大規模災害時の連絡体制の確保を検討した 2.職員への一斉通知・安否確認等の方法について、整備を検討した 各種システム・アプリ等の情報収集を継続中		1.無線の更新にあたり、災害時に強いネットワークを採用するため、次年度計画として益田市に要望を行った
		c.大規模事故・災害対応に関する規程類の作成	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.各事業部と協力し BCP 策定を推進する 地震に関する BCP の雛形を作成し、次年度各部署で対応を検討する。	1.本部と協働して BCP（危機管理における事業継続計画）の作成。 ・今後、各部署単位での検討に移行する。次段階として感染症流行時の事業継続計画の作成も課題 ・9/26 BCP 理解のため厚労省主催の WEB 研修を受講（2名）	
		d.行政等が行う災害訓練への積極的な参加と、医師会独自の訓練の充実	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.石見空港航空機事故消火救難総合訓練等を通じた外部訓練への参加（今年度も卓上訓練となった。） 2.地域住民参加型の院内防災訓練の継続（今年度中止）		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
6-2 労働者の健康管理への支援	①認定産業医のスキルアップ	a.認定産業医のための研修会の開催	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.産業医部会事業として研修会等の開催を継続した（今年度 1 回開催）		
	②地域産業保健センターと協働した健康管理	a.地域産業保健センターとの連携・協働	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.従業員 50 人未満の事業所に対し、地域産業保健センターを中心に健康管理活動を継続した 令和 3 年 4 月より新しいコーディネーターを迎え事業を継続している。		
6-3 園児・学童の健康管理への支援	①健康管理支援体制の強化	a.教育委員会及び学校等との連携強化	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.学校医部会・園医部会の活動を通じて学校等との連携の強化に努める。 （学校医・園医不足について教育委員会との協議が必要） 2.益田市要保護児童対策地域協議会へ参加。		
		b.養護教員等の医療知識向上の協力	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.学校医部会・園医部会の活動を通じて養護教員等の医療知識向上に協力する		
6-4 地域への啓発活動	①医師会主催のイベント・講演会等の見直しと活性化	a.医師会まつりの活性化	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.医師会まつりの活性化に向け検討結果を具体化する （今年度中止）		
		b.その他イベント・講演会等について、マンネリ化の回避	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.イベント・講演会等の検証と先進事例調査等に基づき見直しを行う。 （今年度中止）		
6-5 地域社会貢献の検討	①可能な地域社会貢献の検討と促進	a.現体制で何ができるのか検討と社会貢献の推進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.会員アンケート調査等の結果を踏まえ可能な社会貢献について検討する （新型コロナ感染まん延のため活動できず）		
	②会員・職員の地域活動に対する支援	a.地域社会活動への会員の参加促進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.情報提供等を行い参加の促進に努める 2.地域住民の参加でき、地域での暮らしを支援する企画を検討する。 （新型コロナ感染まん延のため活動できず）		
		b.地域社会活動への職員の参加促進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.会議等を通じ啓発を行い、参加の促進に努める （新型コロナ感染まん延のため活動できず）		
6-6 地域社会活動の支援促進	①地域社会活動に企業ボランティアとしての支援方法の検討	a.地域社会活動に継続的に支援できる方法の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.地域社会活動へ医師会としての支援の方法について検討する （新型コロナ感染まん延のため活動できず）		
		b.地域イベントに医師会救護班等の人的支援の促進の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.引き続き医師会の人的資源を活用した支援について推進する （新型コロナ感染まん延のため活動できず） 2.引き続き医療救護班への派遣、地域行事・学校行事への派遣等を実施 （新型コロナ感染まん延のため活動できず）		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
7 安定した経営基盤の確保			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
7-1 医師会組織の安定した経営基盤の確保	①中長期計画の着実な実行のための組織・体制の構築	a.効率的でわかりやすい組織の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.中長期計画の着実な実行のための組織・体制の検討の継続。		
		b.ガバナンス体制の構築	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.公益法人運営の重点事項として、しっかりと統治が行える体制の構築について不断的努力を行った		
		c.規則・規程等の見直しとコンプライアンスの徹底	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.規則、規程類を整合性・不備等について検証し、必要な見直しを行った 2.公益法人運営の重点事項としてコンプライアンスの徹底について不断的努力を行った		
	②コスト意識と法律に基づく適正な会計の実施	a.コスト意識と、経営への参画意識の醸成	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.研修及び勉強会等の実施により、経営の安定があって、発展につながるとの意識を持った組織を目指す 2.業務の改善に当たっては、常に費用対効果を判断基準のひとつにおき推進する		
		b.コスト管理を重視したシステムの導入 ・原価計算の導入 ・業務の外部委託の是非 ・業務効率化のための本部システムの検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.事業ごとの病棟別等収支状況の分析を継続する		
7-2 病院 一般病棟の安定した運営	①計画的な一般病棟の利用促進	a.3 か年による病棟再編計画の策定	⇒	⇒	⇒		1.令和元年～3 年の病棟再編計画の実行 2.地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 に実施	
	②利用率低下への対応	a.患者情報の収集と分析	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.病床稼働率、在院日数、必要度の動向把握	1. 4 階病棟の在り方と PCFM の確立 2.集計した患者情報を活用して、医療センター内での患者コントロールに生かす	
		b.かかりつけ医・周辺施設と患者情報の共有による効果的なベッドコントロールの実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを図った 2.センター内の患者移動（病院～老健～在宅間の流れ）を効果的にする 老健との連携がスムーズになった。病床活用カンファの活用を進めた 3.周辺施設との入退院連携を進めた 圏域内医療実務者会議で検討 9/2、12/16、3/17 開催	1.会員との情報交換の充実 2.周辺施設との連携強化 3.病床活用カンファレンスの有効利用	
		c.紹介件数の向上	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを図った。病床コントロールのなかで、紹介患者の受入れ方法を検討した 2.患者数確保ため会員へ空床情報を提供 火・金に空床情報を継続して送付した 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内	1.会員・近隣病院・介護事業所に病院情報等の提供 2.近隣病院や介護事業所との連携強化による対象者の確保 3.紹介栄養指導（集団・個人）の継続	

令和３年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						職員、会員への周知を図った 4.会員訪問結果を活用し、紹介しやすい体制をつくる コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪問予定 5.在宅療養後方支援病院の登録を増やす 登録者数 3 月末 70 人、利用者延 28 人。（R3 年度新規 10 人、終了 21 人）		
	③収益の増収方法の検討	a.診療報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.診療報酬・介護報酬改定の際の算定できる加算等の研究と算定方法の検討 2.療養病棟、回復期リハの類上げ。療養病棟は 4 月から、回復期リハは 3 月から実施 3.地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 に実施	
		b.診療報酬外収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.個室化及び療養環境の充実、2 階改修に合わせ、シャワールーム、トイレ、陰圧装置等を整備した個室を 5 つ整備 2.個室料見直しを病棟再編に合わせて実施	
7-3 病院 地域包括ケア病棟の安定した運営	①計画的な地域包括ケア病棟の運用	a.3 か年による病棟再編計画の策定	⇒	⇒	⇒		1.令和元年～令和 3 年の病棟再編計画の実行 2.地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を 10/1 に実施 ・2 階病棟の改修（感染対策を含めた個室の充実）	
	②利用促進方法の検討	a.患者情報の収集と分析	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.病床稼働率、在院日数、必要度の動向把握した	1.地域包括ケア病棟の在り方と PCFM の確立 2.集計した患者情報を活用して、医療センター内での患者コントロールに生かす	
		b.かかりつけ医・周辺施設と患者情報の共有による効果的なベッドコントロールの実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを図った。病床コントロールのなかで、紹介患者の受入れ方法を検討した 2.センター内の患者移動（病院～老健～在宅間の流れ）を効果的にする 老健との連携がスムーズになった。病床活用カンファの活用を進めた 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った 4.周辺施設との入退院連携を進める 圏域内医療実務者会議で検討 9/2、12/16、3/17 開催	1.会員との情報交換の充実 2.連携会議（益田赤十字病院）の継続など周辺施設との連携強化 3.病棟活用カンファレンスの活用し、入院状況や入院取扱いの偏在化解消のため、ベッドコントロールの一元化及び標準化を図る 4.自宅からの地域包括ケア病棟への受入（現 1 または 3 における実績評価部分）の検討（レスパイトの受け入れも必要）	
		c.紹介件数の向上	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを図った。病床コントロールのなかで、紹介患者の受入れ方法を検討した 2.患者数確保ため会員へ空床情報を提供 火・金に空床情報を継続して送付した 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った 4.会員訪問結果を活用し、紹介しやすい体制をつくる コロナのためアンケート調査実施 7/30、40/46 診療所回答あり。3 医院は訪	1.会員・近隣病院・介護事業所に病院情報等の提供 2.近隣病院や介護事業所との連携強化による対象者の確保 3.紹介栄養指導（集団・個人）の継続 4.リハ目的の入院患者数の増加	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						問予定 5.在宅療養後方支援病院の登録を増やす 登録者数3月末70人、利用者延28人。（R3年度新規10人、終了21人）		
	③収益の増収方法の検討	a.診療報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.診療報酬改定の際の算定できる加算等の研究と算定方法の検討 2.地域包括ケア病棟の更なる活用を考え病棟の配置転換を検討している	
		b.診療報酬外収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.2階病棟の個室化・アメニティーの充実 2.個室料の見直しを実施し、室料に対するアメニティーの統一（10/1～）	
7-4 病院 特定病棟（回復期リハ・特殊疾患・医療療養病棟）の安定した運営	①計画的な特定病棟の運用	a.3か年による病棟再編計画の策定	⇒	⇒	⇒		1.令和元年～令和3年の病棟再編計画の実行 2.地域包括ケア病棟と特殊疾患病棟の入替を10/1に実施	
	②利用者減少への対応	a.患者情報の収集と分析	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.対象患者の情報収集をし、待機者確保により病床稼働率を上げるようつとめた	1.患者・利用者の流れ（PCFM）の確立（Patient Client Flow Management） 2.集計した患者情報を活用して、医療センター内での患者コントロールに生かす	
		b.効果的なベッドコントロールの実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.統括部カンファ、病床活用カンファ、医療・介護連携委員会での管理体制強化。困難ケースの洗い出し、在宅部門からの受入れ、受け入れ病棟の選定 2.紹介患者のスムーズな受け入れを図った	1.会員との情報交換の充実 2.連携会議（益田赤十字病院）の継続など周辺施設との連携強化 3.病棟活用カンファレンスの活用し、入院状況や入院取扱いの偏在化解消のため、ベッドコントロールの一元化及び標準化を図る 4.各部署、協働して速やかな受け入れを行う	
		c.紹介件数の向上	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.圏域外慢性期病院からの紹介の促し、状態の把握 益田日赤、六日市病院、萩慈生病院と検討した。益田日赤での出張転院相談を企画実施した 2.居宅介護支援事業所からの紹介の促した 3.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った	1.会員・近隣病院・介護事業所に病院情報等の提供（山口県2病院、広島県6病院を訪問し、当院の機能の説明や当院への紹介依頼） 2.近隣病院や介護事業所との連携強化による対象者の確保 3.紹介栄養指導（集団・個人）の継続	
	③収益の増収方法の検討	a.診療報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.診療報酬改定の際の算定できる加算等の研究と算定方法の検討 2.常に次期改定を視野に入れて、情報を蓄積し対応策を検討する 3.療養病棟1、回復期リハ1に類上げを行った	
		b.診療報酬外収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.調査・検討を続ける 2.個室料の見直しを実施（10/1～）	
	④回復期リハ病棟の効率的な運用	a.回復期リハ病棟に関する情報収集と分析	⇒	⇒	⇒		1.回復期リハ病棟の在り方とPCFMの確立 2.入院基本料3において努力義務である管理栄養士の配置について検討し、（タスクシェア・タスクシフト）入院料1取得の為、配置済	
		b.回復期リハ病棟の施設基準3の維持と1への取り組み	⇒	⇒	⇒		1.治療成績（FIM）の向上検討・対策へ計画をシフトする 2.次期改定での要件維持を行う 3.施設基準3→1へは可能。但し夜勤看護師	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							2名が配置できない⇒1に類上げを行った ・早期の受け入れ、1日に2名の入院受入 4.明確な病棟目標の明示と目標達成への取組 ・実績指数 40 点以上 ・入院期間利用率 55%以下 ・重症度割合 25%以上 ・発症から入棟までの期間 28 日 ・発症から 30 日以内の入棟者 60%以上 ・専任の管理栄養士配置を見据えて、リハビリテーション総合実施計画書の書式変更や益田赤十字病院との連携の推進（類上げに伴い専任・管理栄養士、専従・医療相談員配置済） 5.4 階病棟から回復期リハ病棟への流れの促進 6.回復期リハ病棟からくにさき苑（通所リハ・短期入所）への流れの促進 3 月より入院料 1 の算定を開始、更に 8 月より体制強化加算の算定開始	
		c.回復期リハ病棟の治療成績の集計分析	⇒	⇒	⇒		1.患者獲得への分析・検討を行う ・リハ科と回復期リハ病棟スタッフでの合同勉強会の実施 ・看護師と療法士を公式な FIM 研修会へ派遣 ・適正な評価につながるための定期的な勉強会の開催 2.地域住民や他の医療機関に啓発・営業活動を行う	
		d.回復期リハ病棟入院対象者の拡大や入院体制の見直し	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを検討した 2.周辺施設、特に日赤との連携を進める 8/5 オンラインで実施した日赤との会議や圏域内医療実務者会議で紹介依頼 9/3、12/16、3/17 実施した 3.益田日赤での出張転院相談を企画実施し、患者確保を図った	1.廃用症候群などの入院受け入れ体制の確立 2.入院までの期間の短縮 3.在院日数の短縮の検討	
	⑤特殊疾患病棟の効率的な運用	a.特殊疾患病棟に関する情報収集と分析と目指す方向性	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.受入要件・基準の再検討、再確認。それに則った受入れた。8/5、2/28 オンラインで実施した日赤との会議や圏域内医療実務者会議で紹介依頼 9/3、12/16、3/17 実施 2.益田日赤での出張転院相談を企画実施し、患者確保を図った	1.特殊疾患病棟の在り方と PCFM の確立 2.入院対象者の確保と対象外のバランス確保 3.入院料、加算対象者の受け入れ強化 4.医療・看護対応力の強化 5.明確な病棟目標の明示と目標達成への取り組み 6.地域包括ケア病棟との入れ替えを 10/1 に実施	
	⑥医療療養病棟の効率的な運用	a.医療療養病棟に関する情報収集と分析と目指す方向性	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.入院基本料 I 堅持のための患者確保に努めた 医療相談と医事課と連携を密に取り実施した	1.医療療養病棟の在り方と PCFM の確立 2.療養病棟入院基本料 1 の取得 3.在宅復帰機能強化加算の取得 ・年間 7 名の一般・包括からの入院受け入れ、在宅退院（介護医療院） 4.出来高算定項目への対応 5.医療・看護対応力の強化 6.明確な病棟目標の明示と目標達成への取り組み 7.入院透析の受け入れ 8.リハが必要な疾患が発症して 30 日以内の受け入れ	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							9.施設・在宅からの軽度の増患の受け入れ 10.医療療養病棟の在り方についての理解 11.医療療養病棟の長期患者の介護医療院への移動により、介護医療院において加算創設 12.個室料の見直し実施（10/1～）	
	⑦他組織（介護保険サービス）との連携強化による増収	a.退院後の調整強化	⇒	⇒	⇒		1.地域医療介護連携統括部と共働し、医師会内介護事業所との連携方法について検討する 2.患者・利用者の流れ（PCFM）の確立 3.在宅患者の機能維持・介護維持への取り組み	
		b.退院調整関係の診療報酬の増収対策の検討	⇒	⇒	⇒		1.地域医療介護連携統括部との連携・共働し増収対策について検討する	
		c.会員医療機関連携による診療報酬増収の対策の検討	⇒	⇒	⇒		1.会員と連携することで算定できる加算について検討する（在宅療養後方支援病院、退院時共同指導等） 2.会員医療機関が、在宅療養支援診療所を取得できる支援体制の検討を行う	
7-5 病院 介護医療院の安定した運営	①計画的な介護医療院の運用	a.3 か年による病棟再編計画の策定	⇒	⇒	⇒		1.令和元年～3 年の病棟再編計画の実行 2.介護医療院（＝在宅）への流れの構築 3.介護医療院の機能・メリットを生かした運営 4.令和 3 年度介護報酬改定への対応、10/1 から LIFE の対応開始	
	②利用者安定確保	a.患者情報の収集と分析	⇒	⇒	⇒		1.集計した患者情報を活用して、医療センター内での患者コントロールに生かす 2.介護医療院の在り方と PCFM の確立 3.介護医療院の機能・メリットを生かした利用者の選定	
		b.効果的なベッドコントロールの実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.受入要件・基準の見直し 2.医療介護連携統括部主導によるベッドコントロールの体制強化、医療・介護連携委員会での調整した 3.周辺施設、特に日赤との連携を進める 8/5 オンラインで実施した日赤との会議や圏域内医療実務者会議で紹介依頼 9/3、12/16、3/17 実施した 4.益田日赤での出張転院相談を企画実施し、患者確保を図った	1.会員との情報交換の充実 2.連携会議（益田赤十字病院）の継続など周辺施設との連携強化 3.病床活用カンファレンスの活用し、入院状況や入院取扱いの偏在化解消のため、ベッドコントロールの一元化及び標準化を図る 4.介護医療院のメリットの活用 5.介護医療院における短期入所の検討 6.医療療養病棟の長期患者を介護医療院受け取ることで、介護医療院において加算創設	
		c.紹介件数の向上	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.紹介患者のスムーズな受け入れを検討した 2.病床コントロールについて見直しを行い、院内職員、会員への周知を図った 3.介護医療院のパンフレットを更新した	1.会員・近隣病院・介護事業所に病院情報等の提供（山口県 2 病院、広島県 6 病院を訪問し、当院の機能の説明や当院への紹介を依頼した） 2.近隣病院や介護事業所との連携強化による対象者の確保	
	③収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.算定できる加算等の研究と算定方法の検討 2.セラピストの介入、排泄ケア加算等の検討 3.令和 3 年度介護報酬改定への対応	
		b.介護報酬外収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.介護報酬外収益の検討 2.個室料の見直しを実施（10/1～）	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
7-6 介護老人保健施設の安定した経営	①計画的な介護老人保健施設の運用	a.3 か年によるくにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの策定	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.長期利用者、入所・短期入所、通所リハの適正な振り分けを行った		1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた 2.BCP の策定を継続
	②入所系サービス・入所利用者の安定的確保	a.幅広い高齢者を受け入れるための体制強化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.松ヶ丘病院との連携強化を進めている（松ヶ丘病院退院後の受入れ、認知症患者の受入れ要請など）		1. 病床活用カンファレンス・医療介護連携委員会を活用し重介護者や困難ケースも積極的に受け入れた 2. 幅広い高齢者を受け入れるため、計画的に訓練機器等を整備している 3. 認知症対応力向上のための取り組みの推進や医療ニーズへの対応の強化に努めた 4.離苑への対応として防犯カメラの設置を検討し、益田市へ要望を行った
		b.変化する利用者動向に対応した運営の強化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.長期利用者、入所・短期入所、通所リハの適正な振り分けを図った		1 .益田赤十字病院・松ヶ丘病院相談員と情報交換を行い利用対象者の相談・調整・受入れを行った 2 .新型コロナ感染に関連した高齢者を受け入れ、後方支援の役割を担った
		c.リハビリテーション目的の利用者を増やすための取り組み	⇒	⇒	⇒			1.病院 MSW と連携を図り、リハビリの必要性の高い利用者を積極的に受け入れ、回復期リハ病棟からの入所が 14 名あった 2.利用率が低下する時期の利用促進対策の検討を継続している
	③短期入所サービスの適切な運用	a.利用者数の適正化・維持を図る	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.適正な数の設定、目標値達成を図った		1. 入所を優先しながら、短期入所者数のコントロールを行った（平均：13.7 人） 関係機関へ個別の紹介依頼を継続した
		b.空床の利用促進	⇒	⇒	⇒			1.空床連絡に加え、適宜、居宅介護支援事業所や関係機関へ個別に紹介依頼を実施
	④通所リハビリテーション機能強化等	a.効率的な運営の検討	⇒	⇒	⇒			1.現状調査・分析等の検討を継続中
		b.リハビリテーション機能のあり方（強み）についての検討	⇒	⇒	⇒			1.「リハビリを中心とした通所リハ」を実現するため、サービスの方向性等について協議中
	⑤収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒			1.令和 3 年度介護報酬改定に対応した体制づくりを行った ・安全対策体制加算算定開始（9 月） ・LIFE 導入のための環境および体制整備の準備・整備を行い、R4.4 月より「科学的介護推進体制加算」等の安定開始予定
7-7 居宅介護支援事業所の安定した経営	①計画的な居宅の運用	a.3 か年によるくにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの策定	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.東部・中部包括支援センターケアマネジャーの兼務体制を引き続き検討 2.統括部内の人事異動により活性化を引き続き検討		1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた 2.BCP の策定の一環として、災害時に活用するための「利用者台帳」を作成した
	②利用者の安定的確保	a.新規利用者獲得策の立案	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.益田市内他地域包括支援センターとの情報交換促進、連携強化（ex.定例会開催） 2.医療相談員・支援相談員の居宅ミーティング参加により、潜在的な利用者の発掘を行った		1.利用者数確保のため、適切に予防の受け入れを行った（3 名）
	③効率的な経営基盤の確立	a.効率的な運営具体案の実施	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.東部・中部包括支援センターケアマネジャーの兼務体制を引き続き検討		1.居宅ミーティング・南棟ミーティングを活用して検討した

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						2.管理者の養成 3.医療相談員・支援相談員の居宅ミーティング参加により、潜在的な利用者の発掘を行った		
		b.ケアマネジャーの質の確保	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.東部・中部包括支援センターケアマネジャーの居宅介護支援事業所兼務を引き続き検討 2.統括部内の人事異動により活性化を引き続き検討 3.男性ケアマネジャーの確保		1.事例検討会を行い、ケアマネジメント技術の向上を図った（7/29 実施）
	④収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.マンパワーを見据えた受任件数の再設定をした		1.令和 3 年度介護報酬改定に対応した体制づくりを行い、退院時情報連携加算を算定開始
7-8 訪問看護ステーション等の安定した経営	①計画的な訪問看護の運用	a.3 か年によるくにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの策定	⇒	⇒	⇒			1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた 2.BCP の策定中
	②効率的な経営基盤の確立	a.病院、施設との連携強化	⇒	⇒	⇒			1.必要に応じて、センター管理会を活用し、医師会病院からの利用の促進を図った
		b.独自のサービスの立案・推進	⇒	⇒	⇒			1.インフォーマルサービスについて検討したが、立案や推進には至っていない
		c.セラピスト訪問によるリハビリ提供の積極的な実施	⇒	⇒				1.ケアマネと連携し、主治医に相談しながらリハビリの必要性を検討し、利用の促進を図った
	③収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒			1.令和 3 年度介護報酬改定に対応した体制づくりを行った
7-9 ホームヘルプ事業所の安定した経営	①計画的な訪問介護の運用	a.3 か年によるくにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの策定	⇒	⇒	⇒			1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた 2.TQM 活動で、自然災害用 BCP 案を作成した。 3.運営体制の見直し・検討を行った
	②利用者の安定的確保	a.新規利用者獲得策の立案	⇒	⇒	⇒			1.各介護事業所に働きかけを行い、25 件の新規を獲得した（前年度比 11 件増）
	③効率的な経営基盤の確立	a.効率的な運営具体案の実施	⇒	⇒	⇒			1.訪問時間確保・記録業務の効率化のため、訪問記録用紙の見直し・変更を行った
	④収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒			1.令和 3 年度介護報酬改定へ対応した体制づくりを行った 2.今年度の認知症実践者研修は受講できなかったため、来年度の受講を目指す
7-10 訪問リハビリテーションの安定した経営	①計画的な訪問リハの運用	a.3 か年による病棟再編計画、くにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの策定	⇒	⇒	⇒		1.令和元年～令和 3 年の病棟再編計画、くにさき苑事業部短期ビジョン推進プランの実行	1.くにさき苑事業部短期ビジョン推進プラン（最終年度）を踏まえた運営に努めた 2.BCP の策定中
	②訪問リハビリテーションの利用者確保	a.効率的な運営のための具体策立案	⇒	⇒	⇒		1.くにさき苑入所利用者への広報活動を実施 2.医療センター内での潜在利用者の掘り起しを行う	1.「手引き」の修正と配布 2.対象者を退所前に判定会議で決定する体制を確立した 3.カンファレンス等の機会を活用して、介護支援専門員等に啓発をしている 4.カンファレンスの準備として、事前に支援相談員との協議等を実施
		b.地域のニーズに対応するための具体策立案	⇒	⇒			1.利用者の需要調査を継続実施する 2.圏域内の他事業所の事業を把握する 3.リハ診察困難者への対応	1.市内の他事業所や利用状況を Web を活用して情報収集・データ集計を継続 2.自宅での様子を介護支援専門員と情報共有

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
								し、利用者に必要な訓練・支援を実施できるようになった
	③収益の増収方法の検討	a.介護報酬等収益の確保対策	⇒	⇒	⇒		1.診療報酬改定の際の算定できる加算等の研究と算定方法の検討 2.実施件数や実施期間などの分析と検討体制の確立 3.訪問リハの手引きの修正体制の確立 4.センター内および他機関（開業医、他の医療機関、居宅介護支援事業所、行政など）への定期的な啓発活動のシステム化 5.病院訪問リハ療法士の確保（合計 6 名） 6.病院訪問リハの回転率 90%～60%に調整方法の確立（病院目標：4680 単位／年）	1.令和 3 年度介護報酬改定に対応した体制整備を行った 2.訪問の件数や期間の分析と検討体制の確立に努めた
7-11 地域包括支援センターの安定経営	①事業実施に必要な受託費用の確保	a.益田市との予算協議の継続	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.適正な予算確保に向けた益田市と協議を継続した 【統括部】 1.次年度予算確保に向けた事業費の検証と、市との協議を行った		
	②地域包括支援事業の安定運営	a.益田市との連携を図りながら適切に運営する	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.益田市と毎月連絡会議にて運営について協議を重ねた 2.巡回訪問 コロナのため行われなかった		
		b.地域・関係機関との連携構築	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.医療機関の担当者や民生委員、地域自治組織とのネットワーク構築 4 月民生委員研修会 3 回/年（5・10・1 月）中部圏域地域ケア会議開催にて地域課題について検討できた 7 月障がい相談支援会議で包括の説明をした 10 月益田市包括化推進会議（モデル会議）に複数ニーズを抱えるケールについて事例を提供した		
		c.地域住民への周知	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.チラシ配布 吉田・豊川・北仙道・安田実施 2.地域に出向き、啓発活動の実施 7 月に実施したが、他はコロナのため難しい		
	③指定介護予防支援事業の安定運営	a.安定運営	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.適切な介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援が行える 市が新たに作成した運用マニュアルに基づき実施した 2.東部・中部包括支援センターケアマネジャーの兼務体制を検討し、人員配置など決定した		
		b.ケアプラン作成の効率化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.業務改善の実施 2.プランナーの実務業務の分担を行った		
		c.関係機関との連携強化	⇒	⇒	⇒	【統括部】 1.サービス事業所や新規参入する総合事業実施主体との関係構築 新たな情報収集、顔の見える関係づくり実施した		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推 進 課 題	対 応 方 針	実 施 計 画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
	④中部圏域移設に向けた検討	a.移設後の体制を検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.移設に向け益田市と改修工事および開設予算等の最終調整を行った（10月） 2.業務体制・人員体制の最終決定 3.移設に係る諸手続きを行った 4.運営資予算案を益田市に提案（12月21日）し、益田市から承認を受ける 5.令和4月1日に駅前ビルイーガに移転予定 【統括部】 1.令和3年度中の開設準備をすすめR4.4月に開設予定 2.新たな人事に基づき業務分担を実施した		
7-12 へき地医療施設の安定経営	①益田市国民健康保険医療施設の安定経営	a.地域ニーズに基づく安定した経営を行う	⇒	⇒	⇒	【事業本部・美都診療所】 1.益田市と情報共有を密に図り、地域ニーズに適応した運営に努めた		
		b.指定管理者として益田市と共同でして運営を行う	⇒	⇒	⇒	【事業本部・美都診療所】 1.指定管理者として益田市と連携し安定運営に努めた		
	②へき地巡回診療出張所の安定経営	a.無医地区への医療を提供する体制を維持する	⇒	⇒	⇒		1.会員に協力を得て 9/13 開始の小野地区巡回診療を含む巡回診療体制を維持できた	
		b.益田市と共同で住民ニーズにあった経営を行う	⇒	⇒	⇒		1.益田市からの検討要請に伴い、9/13より小野地区の巡回診療を開始	
		c.運営補助金の確保	⇒	⇒	⇒		1.継続して行う	
	8 人材の確保・育成と働きやすい職場づくり			計画年度			事業本部・その他	病院事業部
推 進 課 題	対 応 方 針	実 施 計 画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
8-1 計画的な人材の確保と育成	①医師会職員への教育体制の充実	a.研修体制の整備と研修機能の充実	⇒	⇒	⇒		1.全体の教育体制を検証しキャリアプラン形成への制度化及び支援	
		b.新専門医制度への対応	⇒	⇒	⇒		1.制度・先進事例等の調査 2.新専門医制度への対応の検討 3.専門医育成計画の策定	
		c.研修医受け入れ体制の検討	⇒	⇒	⇒		1.各種学会の指定施設となるために各基幹大学や病院との連携に努める 2.益田赤十字病院と協議（医学生の受入れも含め）し、必要な条件整備を行う	
		d.認定看護師、特定行為のできる看護師等の資格取得の促進	⇒	⇒	⇒		1.意欲と適正を見極め認定看護師、特定行為のできる看護師等の資格取得を促進する ・看護師不足により教育に充てる職員がおらず未実施としたが、R4年度には教育担当師長を設置する	
		e.管理職、管理職候補者研修の充実	⇒	⇒	⇒		1.各職種にあった管理職研修への参加を促進 2.職能団体が実施する研修に参加させる	
	②医師の求人活動	a.医師確保対策に努める	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.病院事業部と連携し確保に努めた	1.勤務病院選定理由等調査・分析 2.医師確保条件整備の検討 3.島根県（医師確保対策室）への働きかけと連携強化 4.島根大学等への働きかけと連携強化 5.卒後教育・研修プログラムの検討 6.学会認定施設の取得を目指す	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
							7.M 3 キャリアとの個別契約の実施 8.医師の働き方改革への対応（R6.4 月から） 9.繋がりの継続	
		b.医師招聘につながる処遇の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.医師の働き方改革への対応 2.給与制度改革に併せ、給与・諸条件を調整し 新たな給与体制を構築した	1.他病院等における状況について調査する 2.調査内容について分析する 3.就職希望医師の雇用形態別処遇について検討する 4.当院にあった雇用形態のあり方を検討する 5.医師の働き方改革への対応（R6.4 月から）	
		c.親父の背中プログラムの継続	⇒	⇒	⇒	1.合同会社ゲネプロとの連携維持 2.プログラムの継続とブラッシュアップ	1.ゲネプロとの連携を継続して行う 2.親父の背中プログラムの継続とブラッシュアップ 3.医師会病院が求める医師像の確立	
	③職員の安定確保	a.採用困難職種の採用促進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.職員紹介制度（看護師 1 名、理学療法士 1 名、介護福祉士 1 名、薬剤師 1 名）や UI ターン就職支援金貸与制度（看護師 1 名、薬剤師 1 名）の確保対策に加え、みなし時間外制度を導入し、給与面での競争力を高めることにより採用困難職種の確保を図っている 2.人材紹介会社を活用した即戦力確保を行う 保健師 1 名、介護福祉士 1 名を 11/1 採用 3.既退職者等へのリクルート体制を整備しコンタクトを図った	1.不足する専門職の欠員を補うため、業務内容を整理し、補助員の雇用等を含めた定員の見直しを行う 2.潜在資格の掘り起し及びその職場を志向する職員の調査を行う 3.上記定員の見直しを基に、将来を見据えた 5 年程度の採用計画を立てる（機能再編・人口構造・職員の年齢構成等）	
		b.採用活動の徹底	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.WEB、SNS、パンフレット等を活用した情報発信を適宜実施中 2.学校訪問、就職セミナーへの参加、ハローワーク等就職斡旋団体等を利用した採用活動を適宜実施中 3.中高での企業参加イベント等に参加し、医療に目を向ける学生を増やす取り組みを継続する	1.WEB、SNS、パンフレット等を活用した情報発信を行う 2.学校訪問、就職セミナーへの参加、ハローワーク等就職斡旋団体等を利用した採用活動を行う 3.中高生への働きかけ強化し、早期に医療に興味を持つように学生には早期に関係づくりを行っていく	
		c.給与制度の見直し	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.人事給与制度改革により新たに設定した給与体系を新卒採用に効果的に活用する 2.応募動向の変化を分析する	1.競争力のある採用困難職種の初任給、各種手当等の見直しを行う ・人事給与制度改革による給与制度改革に先立ち、採用困難職種のみなし時間外制度の導入を理事会に提案し承認された（9/30 理事会にて）	
		d.採用方法の検証と改善	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.求める人材像の明確化するため、採用基準・方法等を再検証して、必要な人材の確保に努めた	1.求める人材像の明確化するため、採用基準・方法等を再検証して、必要な人材の確保に努める 2.事務で行う適性検査について、試験結果と採用後の状況を検証し、他職種採用試験の改善を図る	
		e.多様な雇用の推進・検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.高齢者継続雇用（定年延長等）について人事給与制度改革に併せて検討し新たな制度を作った 2.高齢者継続雇用、障害者雇用、多様な働き方の受け皿として、業務支援課設置を目指し準備室を設置し体制検討を開始した 3.介護技能実習生受入れがもたらす効果の分	1.高齢者雇用、障害者雇用の推進 ・人員不足部署の業務支援を目指す業務支援課の設置準備室を事業本部総務課に設置し、多様な雇用の受け皿として準備を進める体制を整備した 2.介護職等の不足に備え検討し将来に備えるため、外国人雇用を行う 介護技能実習生の第 1 期生の受入がコロナ	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						析を行う→コロナ禍により 3 名の実習生の辞退となった。	禍で中止。2 期生面接により 3 名の候補者を選定した	
	④人材の育成	a.キャリア形成の支援	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.自己啓発に取り組む環境の醸成のため、経費補助や休暇制度等の導入を検討する		
		b.管理職教育（経営・組織運営、労働関連法、人権、ハラスメントほか）の推進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.管理職の教育制度を構築する 2.計画的な研修制度を整備し、定期的な研修を実施した 3.人事考課制度の検討に合わせてグループワークを実施。（8 回）		
		c.職員教育体制の構築	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.職業人として必要な諸制度（労働基準法、労働安全衛生法、人権、ハラスメント他）についての教育方法について検討し制度化する 2.職種別の教育方法について検討し制度化する		
		d.機能強化・安定運営等に必要な研修受講・資格取得の推進	⇒	⇒	⇒		1.部門長・部署長による研修参加の奨励 2.適切な研究研修費の割り当てを行う 3.各部門・部署独自の研修体制の構築	1.各種資格取得の推進 ・認定特定行為業務従事者 2 名 ・医療安全管理者 1 名 ・介護支援専門員 2 名 ・アセッサー 2 名 2.各種研修受講 ・認知症介護実践研修 1 名 ・身体拘束防止、高齢者虐待防止研修 1 名 ・研修の企画や仕組みの検討を県老健協会企画検討委員会へ提案した
	⑤研修生、実習生の受入れ体制の整備	a.実習担当者の育成	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.石見高等看護学院等実習生の指導者を計画的に養成するため療養病棟 1 名が研修完了		
		b.研修生、実習生の受入れの促進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.魅力ある実習環境の整備ためソフト面での充実を行う		
	⑥医学生・看護学生への就学支援	a.奨学金制度の活用促進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.修学資金貸付対象者等、制度運用の見直しを検討する 2.ホームページ・求人ちらし等において PR に努める 3.近隣高校を通じた PR 活動を行う		
		b.石見高等看護学院との連携強化	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.引き続き定期的な人事交流と必要な非常勤講師の確保に努める 2.意見交換会の実施		
8-2 働きやすい職場 環境づくり	①常勤医師の負担軽減	a.常勤医のニーズの把握し問題点の把握や課題を洗い出す	⇒	⇒	⇒		1.医師の働き方改革への対応（R6.4 月から） 2.常勤医師ニーズ等調査を実施する 3.精神面のフォロー体制（医師同士が支え合える医局を作る）の構築について検討する 4.医局会・モーニングカンファレンス等への参加について徹底する	

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		b.課題への対応策検討、実施する	⇒	⇒	⇒		1.勤務医・看護職員負担軽減策定委員会の活性化を図る	
		c.常勤医の休日・夜間の支援体制の整備	⇒	⇒	⇒		1.休日・夜間の支援体制の充実について検討 2.併せて休日・平日当直についての要請を行う	
		d.タスクシフト・タスクシェアの推進	⇒	⇒	⇒		1.ワンチーム（多職種連携）での取り組み強化 2.多職種の病棟配置の調査・検討	
	②職員が安心・安全・健全に働ける健康経営の推進	a.ハラスメント対策・体制の整備	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.ハラスメント（パワハラ・セクハラ・マタハラ等）防止について、就業規則改正に合わせてセンター管理会で管理職・職員への周知を図った 2.ハラスメント行為に対する処分方針を明確にする 3.広く職員の声を拾い上げる仕組み（意見聴取方法や体制）について検討を行った		
		b.職員の健康保持・増進活動の充実	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.健康経営宣言に基づき、職員の健康管理活動（健診結果のフォローや禁煙サポート等）や余暇時間を利用した健康づくり活動（リハ機器の時間外利用・運動教室等）を推進する 2.心の健康づくり活動（ストレスチェック、カウンセリング、職場復帰プログラム等）を推進した		
		c.福利厚生活動の見直し	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.福利厚生制度の検証と見直しについて検討する 2.福利厚生活動について職員への周知を図る		
		d.安心・安全・健全職場環境づくりの推進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.衛生委員会等の活動を通じて、継続して職場環境の保持・改善を目指した 2.双葉会事業等を通じ部署内外の人間関係構築を支援する 3.職員への情報発信に努める		
	③女性が活躍できる職場環境づくりの推進	a.仕事と育児・介護の両立を支援する環境の整備	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.育児・介護関連休暇制度が取りやすい環境づくりを行う		
		b.職員保育所の安定運営	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.利用しやすさを考慮した保育所を目指し、夜勤明けの利用ルールなどの改善を図った 2.新型コロナ感染クラスター発生により、新たな報告体制を作った		
		c.ワークライフバランスの推進	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.時間外・休日労働の削減、有給休暇の取得促進（計画付与）などの徹底図った		
	④多様な働き方に対応できる雇用制度の検討・整備	a.限定正職員（夜勤のできない看護職）、短時間正職員（フルタイムで働けない職員）等の雇用制度を検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.働き続けられる制度の整備については、人事給与制度改定に併せ新たな制度を作った 2.給与条件等必要な制度設計については、人事給与制度改定に併せ改正した		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		b.定年退職の延長、再雇用制度の見直し検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.定年時期の延長については、次期実施計画の中で検討する。 2.新再雇用制度を、人事給与制度改定に併せ改正した		
8-3 労働意欲の向上につながる人事、給与制度の検討	①人事・給与制度の全般的見直し	a.人事・給与制度の全体的な分析・検証・見直しを実施	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.分析結果に基づき給与制度を改定した 2.人事給与制度改正により新たな給与制度の導入を行った 3.導入説明会を職種ごとに実施。（11回）		
	②人事異動方針に基づく適正な人事異動の実施と評価	a.人事異動方針に基づく人事異動の適宜実施	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.管理職の人事異動および役職登用に係る協議体の設置を行った。（人事調整会議） 2.人事給与制度改正により、次期幹部職員育成のため副主任の設置を行った		
	③人事考課制度の見直し	a.人事考課制度の検証・見直し	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.日本経営に委託し人事考課制度の見直しを行い、来年度の導入に向けて調整中 2.公正な評価とするため考課者教育の一環として評価項目についてグループワークを実施した（8回）		
8-4 島根県立石見高等看護学院の管理・運営	①島根県との緊密な連携	a.適切な情報交換と意見交換の実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.令和4年度当初予算要求の提出に合わせ、県医療政策課と今後の運営方針、事業計画、課題等について意見交換を行った 2.県と連携して、年度末（3/11）1・2年生を対象に「看護学生と現場で働く看護師さんとの交流会」をリモートで開催し、県内就職の意識啓発に取り組んだ 3.令和4年度のカリキュラムの改定に向けて、県との協議を重ね、11月に第5次新カリキュラム改正を申請し、県の学則一部改正に伴う諸規定の改正も年度内に完了した 4.副学院長（教務）の任用について、県医療政策課、財政担当部署と協議を行い、当面の組織・人員体制が確保できた 5.文科省「新たな学習支援制度」の機関認定を継続申請し、機関認定を受けている		
	②魅力ある教育カリキュラムの構築	a.2022年カリキュラム改正の実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.カリキュラム改正の作業に全教員で取り組み、毎月開催する教育課程編成委員会などを活用し、カリキュラム改正（教育内容）の共通認識・理解促進に取り組んだ 2.島根県西部県民センター地域振興課をはじめとする様々な地元団体・施設の協力を得て、地域と連携した魅力ある基礎看護教育活動のあり方を検討し、具体的な地域連携実習プログラムを策定した 3.地域での実習教育のあり方について再検討し、		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						新に松ヶ丘病院や社会福祉協議会、市内民間事業者等での臨地実習を新カリキュラムで実施する 4.カリキュラム改正に併せ、学生に分かり易いシラバスを目指し、見直しを行った 5.カリキュラム改正による予算・経費の見直しを行い、令和 4 年度当初予算を確保した		
	③入学定員の確保	a.看護師国家試験高合格率の維持	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.年度当初に学院目標、教務部目標を設定し、目標達成に向けた学年教育計画を実施した 2.看護師国家試験に向け、計画的に模擬試験などの試験対策を順次実施した 3.令和 3 年度卒業生 36 名全員が看護師国家試験に合格した。（合格率 100%）		
		b.広報活動の展開	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.令和 3 年度からホームページのセキュリティを高めるため、システム更新を実施した 2.教職員のブログを毎週更新し、学院の学生生活の紹介に取り組んだ。学生のブログ更新も計画的に実施した 3.コロナ禍ではあったが、感染防止対策を行い、益田市と協力して、看護学生と地域の子どものふれあい交流事業（匹見・真砂・鎌手小学校訪問）を実施した。また、益田東高校、益田高校からの学校見学・研修の受け入れも行った 4.入学式・卒業式を始め、各種行事をマスコミに取材・広報の依頼を行い、積極的な広報活動を行っている		
		c.学生募集活動の促進	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.コロナ感染防止のため、オープンキャンパスは中止としたが、学院見学会を 7/25、8/1、8/15 の 3 回開催し、県内から 6 0 名以上の高校 3 年生が参加した 2.コロナ禍で、県内の高校訪問する学校数を若干減らしたものの、県東部を含む県内 21 箇所の高校を訪問し、令和 4 年度学生募集の概要を説明した 3.市町村（公立病院含む）との連携推進については、コロナ禍の中で訪問は差し控えた		
		d.更なる魅力アップの検討・実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.各種評価・アンケートの実施、検証のため、学校関係者評価委員会を 10/14 に開催した。年度末には、R3 年度の学生・保護者への「学校評価アンケート」及び全教職員による「自己・点検評価」も実施し、現状を把握し、課題や改善点について整理した 2.学院目標を「協同の精神を基盤として地域と		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						共に歩む学院づくり～地域交流を通して石見高看へのニーズを知る～」とし、更に地域との連携・交流に発展・定着させ、地域における学院の魅力 UP に繋げることを目標とした。コロナ禍ではあったが、新カリキュラムの策定に向け、積極的に地域に出向き地域連携学習プログラムを構築した		
		e. 4 年制大学（養成所の 4 年制化を含む）の調査・検討	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. 現在具体的な情報収集は行っていないが、全国の動向について注視し、情報収集を行っている		
	④必要な看護教員・講師の確保	a. 関係機関との連携協働による看護教員の育成・確保	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. 益田市医師会、益田地域医療センター医師会病院とは毎年、組織・人事について問題意識を共有し、連携・協働していくことを確認している 2. 益田地域医療センター医師会病院・県立中央病院・益田赤十字病院・松ヶ丘病院とは日頃から連携を密にして、継続的に講師派遣を得ている。R4 年度からは新に、邑智病院、済生会江津病院から講師（診療看護師）派遣の協力を得た 3. 看護教員の資格を取得するための予算を確保し、希望者に即応できるよう取り組んでいる		
		b 講師の負担軽減策の検討と実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. 各講義が終了時に、各講師から次年度に向けての要望等の把握に努め、要望に対応するよう取り組んでいる 2. R4 年度からの新カリキュラム改正に伴う講師担当教科目の調整・再編が完了し、新に認定看護師を講師として迎えることで、医師の講師負担の軽減を図る 3. コロナ禍における円滑な遠隔授業を実施するため、安定した通信環境を整備したことで、リモート講義を実施する環境が整備され、遠隔地の講師負担の軽減に繋がった		
	⑤看護教員の教授力の向上	a 研修機会の増と、効果的な研修の実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. コロナ禍でリモートによる島根県教員継続研修となったが、全教員が受講した 2. コロナ禍ではあるが、リモートによる教員指導力向上研修に教員 1 名が参加した 3. コロナ禍ではあるが、必要な各種教員研修への参加支援を行った		
		b 臨床現場研修の実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. コロナ禍で、教員の臨床現場研修は困難と判断し、短期・長期の臨床研修は実施していない		
		c 自己研鑽への支援とモチベーションの向上推進	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1. キャリア別達成目標の運用・実施している		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
						2.自己研鑽支援休暇制度は設けているが、コロナ禍でその制度を活用促進できない状況にある		
		d 学会等への積極的参加	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.今年度はコロナ禍で学会活動ができにくい状況であったが、医学書院「看護教育」6月号9月号に記事を執筆し、当学院の教育的取り組みを発表した		
	⑥学院環境の整備	a 学び舎として快適環境の整備	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.学生の学内清掃、町内清掃への参加などにより、学生美化意識の高揚及び美化活動の推進を行っている 2.季節ごとに植栽等の適正管理を継続・維持する予算を確保し、実施している 3.継続的な新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を実施している。益田市医師会の支援を受け、学生のコロナワクチンの 1・2 回接種を 8 月上旬までに完了し、3 回目接種も 2 月下旬に完了することができた		
		b 常時点検による適切な整備の実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.施設・備品設備のチェックを行い、必要な予算を確保し、施設・設備の定期点検を確実に実施している 2.備品（教育備品を含む）の計画的更新計画を基に、予算を確保し整備している		
	⑦地域への貢献	a.卒業生の県内就業率の向上	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.県と連携して、年度末（3/11）1・2 年生を対象に「看護学生と現場で働く看護師さんとの交流会」をリモートで開催し、県内就職の意識啓発に取り組んだ。（再掲） 2.コロナ禍ではあったが、県内に就業している卒業生を対象にホームカミングティを実施した 3.地域推薦入学生を対象に、推薦市町では夏季休暇期間を利用して、市・町長、地元医療機関の先輩看護師等との意見交換会を開催し、地元就職への意識付けを行っている		
		b.地域貢献策の検討・実施	⇒	⇒	⇒	【石見高看】 1.コロナ禍で学生のボランティアの募集もなく、あえて、活動参加の促進は行わなかった 2.また、学院祭など学院イベントについても、地域住民の参加等を行わなかった 3.益田医師会病院内の保育園の運動会に体育館を解放したが、その他コロナ禍で学院施設の地域への貸出も積極的には実施していない		

令和 3 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
9 計画に基づく必要な施設等の整備充実			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
9-1 医療センターの新たな施設整備	① 医師会施設の計画的整備	a.施設・設備の修繕・整備等計画書作成と実施	⇒	⇒	⇒	1.単年度予算計上のための建築設備工事計画の作成と実施	・新型コロナウイルス等、感染症対応や対策を講じた施設・設備整備をおこなった ・ニーズに合った個室の整備	
		b.施設管理システムや体制の検討	⇒	⇒	⇒	1.電子マニフェストの導入と運用（2 年度導入のため中止） 2.空調システム運用の PDCA 管理の実施（継続中）		
	②省エネ、CO2 削減対策	a.省エネ新技術の導入促進	⇒	⇒	⇒	1.補助金活用に向けた情報収集の実施		
	③環境の美化	a.総合的な環境美化対策の推進	⇒	⇒	⇒	1.委託業者との契約の見直し（2 年度と同内容で再契約） 2.OB 会と連携し継続的に活動する（コロナ感染ため活動できず）		
	④交流の場の整備	a.交流の場の設置の検討	⇒	⇒	⇒	1.病棟再編計画での検討を視野に入れる（実現できず）		
9-2 施設設備の老朽化への対応	①昭和 61 年建設病院本館棟の建て替え準備	a.本館棟建替資金の計画的積み立て	⇒	⇒	⇒		1.計画期間（平成 24 年度から令和 29 年度）において、収支相償上の積立限度額の範囲内で積み立てを行う	
	②介護施設整備を実行	a.益田市事業の検討と要望	⇒	⇒	⇒			1.緊急性・重要性を検討し、運営協議会において次年度の要望内容確定した
	③地域包括支援センター中部圏域の移設	a.移設後の体制を検討	⇒	⇒	⇒	1. 移設工事については、12 月 13 日付けで補助金交付決定。指名競争入札（12 月 27 日）を実施し宮田建設工業(株)益田支店が落札。令和 4 年 1 月 11 日に工事に着手し、3 月 11 日に完成した 2.中部移設後に併せ、東部包括支援センターの体制・設置場所等については現状どおりとする		